

# SPORT HAPPINESS FOR WOMEN

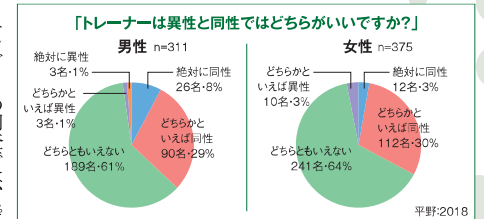
今後さらに重要性が高まるテーマだと考えられる女性スポーツ。「もっと、女性が、スポーツを楽しむ社会」の実現をめざすべく、スポーツのある幸せなライフスタイルにつながる情報を発信していく。今回はコーチやアスレティックトレーナー（以下JSPO-AT）が知っておくべき、セクシュアル・ハラスメントに配慮したコーチングやコミュニケーションについて紹介する。

## （連載）第16回 セクシュアル・ハラスメントに配慮したコーチングやコミュニケーション



ひらの かよこ  
 解説/平野佳代子  
 JSPO公認アスレティックトレーナー、理学療法士  
 井戸田整形外科名駅スポーツクリニック勤務(リハビリテーション部長)。大学卒業後、スポーツ医・科学研究所に勤務(研究員・理学療法士)し、数多くの選手をサポート。ジュニアからトップのアスリートまで、多くの女性選手へヘアカタリ対応を経験。現在は自身でもトレーナー活動を行いつつ、後進への指導、育成にも尽力している。

■図表:アスリートに対するトレーナーの性別に関する調査



平野・2018

「心」が女性でも男性も約3割。女性に関しては「婦人科系の相談」が約3割ありました。この結果から、同性を求め意見はそれほど多くない、と読み取れるかもしれません。実際によく選手も言いますが、トレーナーには技量を求める意見が多いものです。ベストな対応をしてももらえるなら性別はどちらでもいい。しかし、デリケートな部分の対応は同性がいい、という意見は少なくともあるわけです。無視していい内容かという、決してそうではないはず。女性のトレーナーが対応すべき女性のトレーナーに対応が求められる場面で、きちんと対応できる状況であることが望ましい。この点がセクハラ対策ということになると思います。

「セクハラへの配慮をしている」という言動をとる

職業柄、身体接触については、どうしても行うので、「触るのが当たり前」だという認識にならないよう、日ごろから意識していき

す。選手は触られることに慣れていたりしますが、初めて会うケースもあるので、配慮なく接触するのはよくありません。

また、触る部位について、体のデリケートな部分に関しては、同性であつても細心の注意を払う必要がありますよ、ということも相手しなかつてもらうような行動をとるようになっていきます。そうすれば選手も「この人はわかっているんだな」と思ってくれます。実際には、選手からそんなこといいますよ」

「別に平野さんだからかまいません」などと一言もありませんが、「そういう問題ではないから」ときちんと伝えるようにしています。

具体的には、例えば遠征先の宿泊先でケアをするときに、選手と二人きりにならないよう選手を複数人呼ぶなどしています。どうしても二人にならない場合は、密室にならないようドアや窓を開けて対



処置

二人きりにならない状況では、ドアや窓を開けて密室にならないようにする。こうして選手に「セクハラにならないように配慮していますよ」とわかってもらうことも大切(イラスト/庄司 猛)

「別に平野さんだからかまいません」などと一言もありませんが、「そういう問題ではないから」ときちんと伝えるようにしています。具体的には、例えば遠征先の宿泊先でケアをするときに、選手と二人きりにならないよう選手を複数人呼ぶなどしています。どうしても二人にならない場合は、密室にならないようドアや窓を開けて対

必要に応じて、女性選手が安全に、自身が見望むスタイルでスポーツと関われる、そんな社会になればいいなと思います。

女性のスポーツ実施率は男性に比べ低いです。女性のJSPO-ATもなかなか増えていないのが現状です。私の研究しているところの範囲内では、スポーツ現場で活躍する女性のJSPO-ATをどうやったら増やせるか、自身の研究活動にプラスしてさまざまな公的団体を通じて啓発活動を行い、自分がこれまで経験してきたことを皆さんにお伝えしていきたいと思っています。

### 女性スポーツ促進に向けたスポーツ指導者ハンドブック

女性スポーツにおけるハラスメント(17~22ページ)ではハラスメントの考え方や気をつけるべきポイントをまとめています。その他、女性の月経に関する知識や月経随伴症状についても掲載していますので、この機会にぜひご覧ください。